

アニマルウェルフェアとは

最近「アニマルウェルフェア」という言葉が取りあげられる機会が増えてきました。あまり聞きなれない言葉ですね。「アニマルウェルフェア」は、「快適性に配慮した家畜の飼養管理」のことを言います。

1960年頃欧州で、密飼い等の近代的な畜産のあり方について問題提起されたことが発端になり、2000年代になって国際的に飼育管理のガイドラインが検討されるようになりました。

家畜といえども快適な環境で飼育し、輸送なども生き物として取り扱いたまおうという考え方です。

●アニマルウェルフェアの目的

アニマルウェルフェアの考え方に基づいた飼養管理はストレスやケガ、疾病などを減らし、家畜が健康であることで、安全・安心な畜産物の生産につながります。また、家畜の能力を引き出し、治療費などのコストの軽減にもなり、生産性の向上にもつながると考えられています。

東海コープ
ホームページに
「おいしくって、
安全なおはなし」の
バックナンバーが
あります。



●国内の取り組み

農水省が2020年3月に「アニマルウェルフェアの考え方に対応した〇の飼養管理指針」(〇は肉用牛、乳牛、採卵鶏、ブロイラー、豚、馬)と同「家畜の殺処分に関する指針」「家畜の輸送に関する指針」が示されました。

今後国内では飼料、飼育スペース、輸送方法などはこの指針が参考になり飼養環境が改善されていくと思われます。

●東海コープの取り組み

東海コープでは2007年から生協の畜産物が満たすべき基準と、品質向上の方向を示した「畜産物の品質指針」をまとめており、「はぐくみ自慢(畜産物)」の基本的な考え方となっています。この指針にはアニマルウェルフェアに通じる考え方が含まれています。

例えば東海コープの「鶏卵の品質指針」では、家畜の健康管理、農場の施設要件、飼料や水の管理などアニマルウェルフェアの考え方に通じるものがすでに盛り込まれています。

産地でこれらの家畜の飼養環境を確かめることもできます。生産者の方が動物を大切にしていることが理解できると思います。

日本で話題になるずっと前から、今でいうアニマルウェルフェアに近い考え方を取り入れてきた生協の「はぐくみ自慢」の商品は自信をもっておすすめできる生協商品の一つです。

2022年
11月3週
(46号)

東海コープからの

おいしくって、
安全なおはなし

